

信長を追い込んだ

朝倉義景と 元亀争乱



朝倉義景肖像
(心月寺蔵)

天 下統一を目前に控えた織田信長にも危機的状況に陥った時期がありました。それが元亀年間です。信長は朝倉氏などを敵として、天下の成敗権を将軍足利義昭に認めさせ、4年にわたって攻撃しました。朝倉氏はこれに正面から対決。この戦いは、当時の年号から「元亀争乱」と呼ばれています。

元亀元（1570）年4月、信長は朝倉氏征伐に出発し、敦賀郡を攻略しました。しかし、近江の六角氏や浅井氏がその背後を衝いたため失敗し、京都に逃げ帰ります。撤退戦

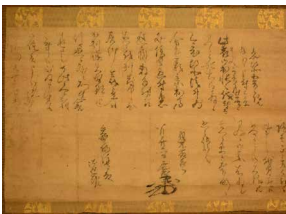
で有名な「金ヶ崎の退口」です。その後、信長は三河（愛知県）から遠江（静岡県）に進出した徳川家康の合力を得て、近江（滋賀県）の姉川で朝倉・浅井軍と決戦を行いました。勝敗はつきませんでした。その後、三好三人衆が攻勢を強め、また本願寺顕如が信長との対決姿勢を明らかにしたことなどから、朝倉義景は浅井氏や一向一揆と連合して近江坂本に出兵。秋以降、朝倉氏は坂本から比叡山に展開し、信長と対陣します。これが信長最大の危機とされる「志賀の陣」です。信長は、将軍義昭や宮中にすがって和睦を乞い、

兵を戻しました。朝倉氏は、あと一歩で信長を滅亡させることができたといわれています。

元亀2（1571）年、信長は、前年朝倉氏に協力した比叡山延暦寺と坂本日吉社を焼討ちにします。そして、元亀3（1572）年には、小谷城への本格的な攻勢を始めました。一方、甲斐（山梨県）では、武田信玄が遠江に侵攻し、信長らを東西から挟み撃ちしようとして、義景に出陣を要請します。義景は自ら出陣して小谷城の支城、大嶽城に籠城しました。信玄は三方ヶ原の合戦で徳川家康を破ります。信長を滅亡に追い込むチャンスがもう一度訪れたのです。

しかし、同年12月に、義景は兵糧米補給の不安から越前へ帰陣します。実は、この裏では、上杉謙信が信長の依頼を受けて帰国を勧めたのです。

元亀4（1573）年、信長が湖西を攻めたことから、義景は浅井氏



羽柴秀吉書状
(福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館蔵)

救援のため敦賀に出陣します。信長が岐阜に帰陣したときに近江に出陣するも、信長の攻撃で小谷城救援に失敗。さらに退却の途中、近江から敦賀に至る刀根坂で信長方に大敗して大きな損失をこうむりました。義景は一乗谷に帰陣しますが、重臣の朝倉景鏡の裏切りにあい、自害するのです。

近江の地を戦場として覇権が争われた元亀争乱。約4年の歳月をかけた戦いで、朝倉氏は好機をものにならずに最後には滅亡することになり、一方で、信長は天下統一に大きく進む転換点となったのです。

関連史料・ゆかりの地

朝倉義景墓所



(画像提供：福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館)

元亀4（1573）年8月20日、朝倉義景は大野の六坊賢松寺で果てました。この寺は廃寺となっており、どこにあったのかもよくわかっていません。現在、大野市泉町には賢松寺から移設されたと考えられる「朝倉義景墓所」（大野市指定史跡）があります。

【住所】大野市泉町10（JR 越前大野駅より徒歩 15分）

参考資料等

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館編『越前朝倉氏・一乗谷 眠りからさめた戦国城下町』
福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館編『福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館古文書調査資料3 越前・朝倉氏関係年表』

執筆・協力

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 学芸員 石川 美咲